

Ⅲ 耕地の利用状況

1 農作物作付（栽培）延べ面積及び耕地利用率（令和５年）

- (1) 田畑計の作付（栽培）延べ面積は391万2,000ha（前年に比べ3万5,000ha（1％）減少）となった。

田畑計の耕地利用率は91.0％（前年に比べ0.3ポイント低下）となった（表14）。

- (2) 田の作付（栽培）延べ面積は217万5,000ha（前年に比べ1万2,000ha（1％）減少）となった。

田の耕地利用率は93.1％（前年に比べ0.1ポイント上昇）となった（表14）。

- (3) 畑の作付（栽培）延べ面積は173万7,000ha（前年に比べ2万3,000ha（1％）減少）となった。

畑の耕地利用率は88.5％（前年に比べ0.7ポイント低下）となった（表14）。

表 14 令和５年農作物作付（栽培）延べ面積及び耕地利用率

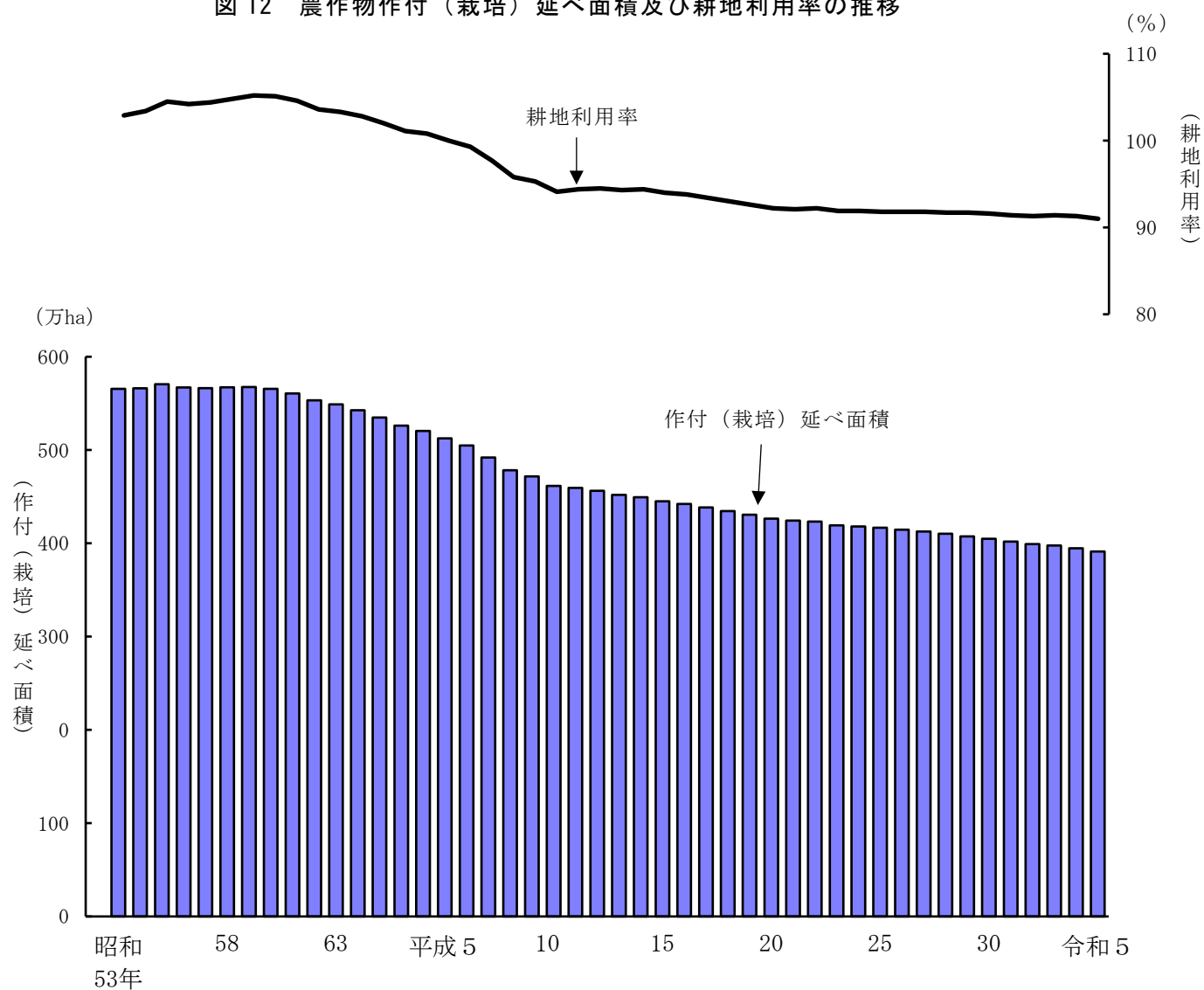
区 分	田 畑 計			田			畑		
	作付（栽培） 延べ面積	前年との比較		作付（栽培） 延べ面積	前年との比較		作付（栽培） 延べ面積	前年との比較	
		対差	対比		対差	対比		対差	対比
	ha	ha	%	ha	ha	%	ha	ha	%
作付（栽培）延べ面積	3,912,000	△ 35,000	99	2,175,000	△ 12,000	99	1,737,000	△ 23,000	99
水 稻（子実用）	1,344,000	△ 11,000	99	…	nc	nc	…	nc	nc
麦 類（子実用）	295,700	5,100	102	189,100	3,300	102	106,600	1,800	102
大豆（乾燥子実）	154,700	3,100	102	122,000	1,300	101	32,700	1,800	106
そば（乾燥子実）	67,100	1,500	102	39,400	1,100	103	27,800	500	102
なたね（子実用）	1,740	0	100	…	nc	nc	…	nc	nc
そ の 他 作 物	2,048,000	△ 35,000	98	479,400	△ 7,200	99	1,569,000	△ 27,000	98
耕 地 面 積	4,297,000	△ 28,000	99	2,335,000	△ 17,000	99	1,962,000	△ 11,000	99
耕 地 利 用 率	91.0	△0.3ポイント	-	93.1	0.1ポイント	-	88.5	△0.7ポイント	-

注：耕地利用率とは、耕地面積を「100」とした場合の作付（栽培）延べ面積の割合である。

$$\text{耕地利用率（％）} = \frac{\text{作付（栽培）延べ面積}}{\text{耕地面積}} \times 100$$

- (4) 作付（栽培）延べ面積の動向をみると、昭和49年から昭和60年は麦類の生産振興による作付面積の増加等からほぼ横ばいで推移した。昭和61年以降は作物ごとに増減はあるものの、総体的には減少傾向で推移している（図12）。
- (5) 耕地利用率の動向をみると、昭和48年から平成４年までは100％を越えていたが、平成５年に100％となり、平成６年には99.3％と100％を下回った。平成７年以降はほぼ低下傾向で推移し、平成23年以降はほぼ横ばいで推移している（図12）。

図 12 農作物作付（栽培）延べ面積及び耕地利用率の推移



2 夏期における田本地の利用状況

- (1) 令和5年夏期（おおむね水稻の栽培期間）における田本地の利用状況をみると、水稻作付田は153万1,000ha（青刈り面積を含む。）（前年に比べ1万4,000ha（1％）減少）となった。

水稻以外の作物のみの作付田は40万500ha（前年に比べ3,900ha（1％）減少）となった。

また、夏期全期不作付地は27万4,900ha（前年に比べ1,800ha（1％）増加）となった。

この結果、田本地に占める水稻作付田の割合は69.4％、水稻以外の作物のみの作付田の割合は18.1％、夏期全期不作付地の割合は12.5％となった（表15）。

表 15 令和5年夏期における田本地の利用状況

区 分	面 積	前年との比較		構成比
		対 差	対 比	
	ha	ha	%	%
田 本 地	2,207,000	△ 16,000	99	100.0
水 稻 作 付 田	1,531,000	△ 14,000	99	69.4
水稻以外の作物のみの作付田	400,500	△ 3,900	99	18.1
夏 期 全 期 不 作 付 地	274,900	1,800	101	12.5

- (2) 夏期における田本地の利用状況の動向をみると、米の生産調整が実施されて以降、米の生産調整面積の変動による増減はあったものの、水稻作付田は減少傾向で推移している（図13）。

図 13 夏期における田本地の利用状況の推移

